

横須賀市新市立病院 建設基本計画 【概要版】

はじめに 本計画の策定の経緯と位置づけ

本基本計画は、平成 31 年（2019 年）3月に横須賀市立 2 病院の現状を明らかにし、今後、地域でどのような役割を担っていくべきか、そのためにはどのような整備をしていくべきかの方向性を取りまとめた「横須賀市立病院将来構想」を受け、市立うわまち病院の移転建替えとなる新市立病院建設事業の実施に向け、新市立病院整備にあたっての基本方針（コンセプト）や施設整備計画等を取りまとめたものです。

新市立病院の基本理念

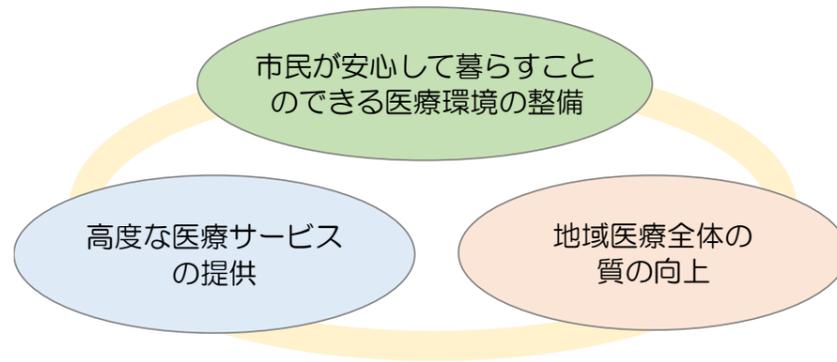
新市立病院では、市立うわまち病院の基本理念や基本方針を引き継いでいきます。

基本理念

私たちは、優しい心、深い知識、高い技術をもって安全に配慮した、良質な医療を提供し、地域社会に貢献します。

新市立病院での医療提供の方向性

新市立病院では、市立うわまち病院で提供している医療機能及び果たすべき役割を踏まえ、急性期医療を中心に担っていく病院として、現在の機能を確実に引き継ぐとともに、その充実を図ることができるようにします。



■市民が安心して暮らすことのできる医療環境の整備

- 救命救急センター機能を持つ医療機関として、二次、三次救急医療を中心に対応します。
- 災害時は、中等症以上（入院が必要）の多くの負傷者に対応します。
- 周産期、小児医療を一体的に提供します。

■高度な医療サービスの提供

- 5 疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患を合併している患者）への対応を図り、地域完結型の医療を目指します。

■地域医療全体の質の向上

- 急性期機能を中心に担う医療機関として、関係機関や施設との連携を図ります。
- 地域で安心して医療・介護及び福祉サービスを受けられるよう、入院前から退院後まで、一貫して支援する総合患者支援センターの機能を強化します。

新市立病院の整備にあたっての基本方針（コンセプト）

(1) 24 時間 365 日いつでも救急医療を提供できる病院

- 救命救急センター機能を強化し、重症患者を中心に 24 時間 365 日受け入れ可能な体制とします。
- 最新の医療機器、技術を積極的に導入するとともに、手術室や ICU の充実を図ります。
- 周辺環境に配慮しつつ、ドクターヘリによる救急患者の搬送が円滑に行えるよう、屋上ヘリポートの設置を検討します。

(2) 災害に強い安全で安心な病院

- 大規模災害の発生に備え、ライフライン（電気・ガス・水道）の確保や食料、医薬品等の備蓄を行い、災害時にも医療を継続できる施設とします。
- 大地震後にも診療を継続できるよう、免震構造を基本とします。
- 津波・豪雨の発生に備え、電機室を 2 階以上に設置する等の浸水対策を検討します。

(3) 患者にとって分かりやすく、信頼される、明るい病院

- 快適で良好な療養環境や外来スペースを整備します。
- 誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの考え方に基づいたサイン計画、内装デザインを採用します。
- 来院者が利用しやすく、過ごしやすい、コンビニエンスストアやレストラン等の利便サービス施設とします。

(4) 職員にとって働きやすい病院

- 関連する部門の近接性やつながり、人やモノの流れを考慮し、患者さんと職員の動線が交錯しないよう配慮した施設とします。
- ICT・IoT・AI 等を導入しやすい環境とします。

(5) 将来の変化に柔軟に対応できる病院

- 医療制度や需要の変化、医療技術の進歩など、将来の変化に柔軟に対応できる施設とします。

(6) ライフサイクルコストに配慮した病院

- 新市立病院建設に伴う将来の経営負担を軽減するため、建設コストの低減を図ります。
- 建物の長寿命化や自然エネルギーの活用等により、ライフサイクルコストの縮減につながる手法を採用します。

コンセプトの実現に向けた部門別の具体的整備計画

救急部門：二次・三次救急（重症患者）を中心に、24時間365日受け入れ可能な体制とします。また、ドクターカーによる医療の早期介入や、ドクターヘリによる救急患者の搬送に対応します。

外来部門：市立うわまち病院と同じ28診療科の標榜及び専門外来等の実施を想定します。

診療科	内科、精神科、脳神経内科、循環器内科、腎臓内科、呼吸器内科、消化器内科、小児科、小児外科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、形成外科、泌尿器科、産科、婦人科、皮膚科、耳鼻いんこう科、眼科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、病理診断科
-----	--

また、臓器別、関連診療科別の外来センター化を想定した分かりやすいゾーン分けやユニバーサルデザインに基づく案内表示等により、迷わない、分かりやすい外来を整備するとともに、ICTやIoTを積極的に活用し、待ち時間等を短縮できるよう対策を進めます。

病棟部門：新市立病院の病床数は全体で**450床**とし、その内訳は右表の病床配置を想定します。患者さんの病状・特性に合わせた適切な看護・医療を提供し、快適で良好な療養環境とします。

一般病床	350床
（救命救急センター）	24床
（ICU）	14床
（SCU）	6床
（NICU）	6床
（GCU）	6床
（一般病床）	294床
回復期リハビリテーション病床	100床
合計	450床

手術部門：身体への負担が小さい低侵襲手術や手術支援ロボットなど、最新の医療機器、技術を積極的に導入し、多様化する手術への対応を図ります。

健診部門：市民健診、特定健診、がん検診等を行い、地域の予防医療に貢献します。

総合患者支援部門：患者窓口を総合患者支援センターに一元化し、患者さんの受診から入院、退院後まで総合的なサポートを行います。

利便施設：来院者と職員のスペースを分けたレストランやコンビニエンスストア等の出店を想定します。また、市の病児保育事業として、病児・病後児保育を行います。

新市立病院整備に係る概算事業費

新市立病院建設に係る概算事業費は、**約264億円（建設工事費約181億円、医療機器整備費約62億円、その他約21億円）**を見込みます。

この事業費を基に収支シミュレーションを行ったところ、開院後5年目までは、新市立病院開院時に整備する医療機器の減価償却費の影響等により純損失（赤字）が生じることが予想されますが、6年目以降は経営が安定化する見込みです。

事業費及び収支シミュレーションについては、今後、設計や建設工事を進めていくなかで、診療報酬改定や患者動向などの医療環境の変化も踏まえ、見直しを行っていきます。

施設整備計画

建設予定地：神明公園（横須賀市神明町1番地8）



建物規模

新市立病院の整備規模は、近年建設された他病院の事例から1床当たりの面積を80㎡とし、**延床面積36,000㎡**を基本とします。

敷地利用計画

十分な利用者用駐車場を確保したうえで機能的な新市立病院を整備します。

敷地内を横断する雨水幹線や日影規制を考慮した位置に配置します。

救急車、来院者車両等の動線を原則分離させるとともに、駐車場入り口の混雑を回避するため、敷地内に十分な滞留スペースを設け、機能性と安全性に配慮します。

構造・設備計画

各種災害に備えた構造や必要な設備整備に努めます。

特に地震災害に備え、免震構造の採用やライフラインの二重化、備蓄の確保等、被災時にも医療を継続できる病院とします。

整備手法とスケジュール

実施設計と施工を包括発注するDB（デザインビルド）方式を採用します。

基本計画策定後、速やかに基本設計に着手し、その後、令和2年度（2020年度）中に実施設計と施工を行うDB事業者を選定、令和6年度（2024年度）中に竣工し、**令和7年（2025年）夏の開院を目標**とします。

令和元年度 （2019年度）	令和2年度 （2020年度）	令和3年度 （2021年度）	令和4年度 （2022年度）	令和5年度 （2023年度）	令和6年度 （2024年度）	令和7年度 （2025年度）
基本計画	基本設計	実施設計・工事		工事監理	開院準備	開院

令和2年（2020年）4月発行

編集・発行 横須賀市 健康部 市立病院課 新市立病院建設担当 〒238-8550 横須賀市小川町11番地 TEL 046 (822) 9991

～詳細については市ホームページをご覧ください～ <https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/3125/byoinjigyo/documents/uwamatitatekaekannrennjyouhou.html>